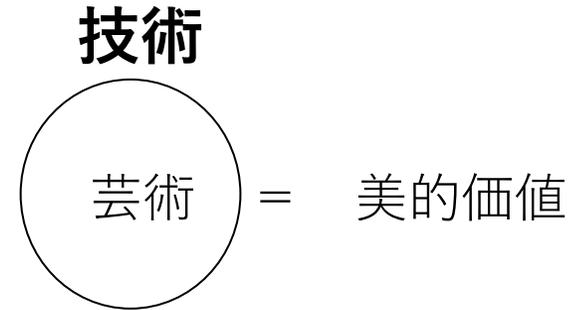


# 建築論

## 三 芸術性の問題

## 芸術とは



美的感覚は同一ではないし、個人的である。  
「— 美術は美と何の必然的な関係もない。」



## 1. 空間芸術としての建築

芸術としての建築は、本体に即しながらそれとは別に認識される現象の場としての空間、現象空間

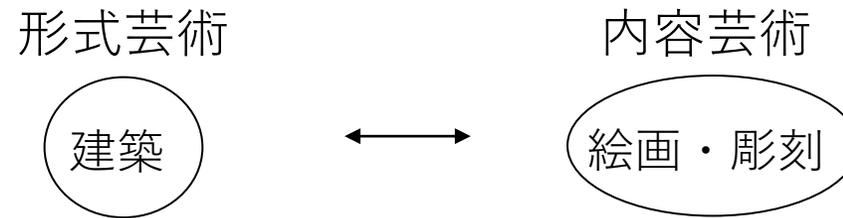
建築の内部空間にも外部空間にも存在する



建築の中には、時間の枠をはめてみることによってはじめてその芸術性が完全に理解されるものがあるにしても、本質的に空間芸術

## 2. 形式芸術としての建築

美学・芸術学における



形式（現象的組織） … 色、音、形そのもの  
内容（事物的組織） … 事象、物象を語っていると受け取られるもの

一つの作品の中で分別

{ 可能 → 内容芸術  
不可能 → 形式芸術

### 3. ヴォリュームによって成立する芸術としての建築

建築を建築たらしめる決定的な因子はヴォリュームという感覚質である

ヴォリューム…ある量をもった三次元の空間内に成立する形

主感覚の資格

副感覚質



装飾

よそいかざること

- 1. 色
- 2. 光
- 3. 線
- 4. テクスチャ

建築の表現を豊かにする

もしくは

表現を弱め、乱す

優れた建築はこの均衡尾を注意深く見守っている

ロマン主義

ラスキント「建築の七燈」 建築における装飾の優位性を主張

即物的建築観 装飾の権威剥奪

近代

無装飾主義の西洋建築が日本で受けられる

根本は一緒